



4

ネットでの議論のしかた



4 ネットでの議論のしかた

人間が一生のうちに出会える人には、限りがあります。しかし現代では、交通網の発達、電話の発明、そしてインターネットの登場によって、昔の人からは想像もできないほどの多くの人たちと出会えるようになっていきます。そして多くの人と出会えるからこそ、自分の考えとは異なる意見を理解したり、お互いの意見を調整する能力が必要になってきます。

●ネットで意見をやり取りするときのポイント●

ブログやプロフのコメント欄、SNS などを使えば、遠く離れた人や、実際に会ったことのない人とも相談をしたり、意見をやり取りすることができます。しかし自分と他の人とが、常に同じ意見であるとは限りません。

「好き」や「嫌い」といった好みの問題では、お互いの価値観を認めて、相手の意見を尊重する必要があります。しかしそれでも、ケンカやもめ事に巻き込まれることもあるでしょう。ネット上の多くのもめ事の原因は、ネット特有の意味の取り違えであったり、気持ちを誤解していたなどといった、ささいなことから起こります。

問題 4-1

以下は、あるゲームの攻略情報を交換する掲示板でのやりとりです。書き込みをした人たちの問題点について、話し合ってみましょう。

ゆった：西の洞くつの地下7階のとびらのかぎってどこにあるんですか？

奏：地下3階の魔法使いを5体倒すと出てくる宝箱の中に入ってるよ。

ゆった：さっそく試してみたんだけど、宝箱が出てこないみたいです。

タケ：奏の情報は間違い。ちゃんと調べてから書けよ。

奏：友だちから聞いたことを教えてただけなのに、そんなえらそうな口調で書くことないじゃないですか。

タケ：間違ってたのに、よくそんな言い方ができるよな。

ゆった：で、結局、どうやったらかぎは手に入るんですか……。

1. 奏とタケは、なぜケンカしてしまったのでしょうか。

2. 掲示板などで知らない人と情報交換や会話をして、よかったこと、失敗したことはありますか。

4 ネットでの議論のしかた

ネットでのトラブルを防ぐために、掲示板などの書き込みには、次のようなポイントに注意するとよいでしょう。

1. 確かな情報を書き込む。

うわさ話や想像の話など、不確かな情報をもとにしては、いつまでも正しい結論にたどり着くことはできません。また自分が有利なようにその情報を書き込むと、やりとりしている相手だけではなく、結果的にそれを見ている多くの人をだましてしまうおそれもあります。新聞社のニュースサイト、企業の公式サイトなど、信頼のおける情報源を調べて、正確だと自信を持てることから書き込むようにしましょう。



2. 時間差があることをふまえる。

あなたが書き込んだ意見を、みんながその場で見ているとは限りません。したがって、他の人に質問や提案をしたときでも、すぐに返答がこないこともあります。人の事情や都合を無視して、答えをせかしたり、一方的に決めてしまったりするべきではありません。

3. 丁寧な言葉で書き込む。

文字だけでやり取りをするネット上の会話では、書き込んだ人の気持ちや、「どんなつもりなのか」まではなかなか伝わりません。気軽に話をするつもりでくださった言葉づかいで書き込んだとしても、相手には怒っているかのような印象を与え、感情的なやり取りに発展するかもしれません。相手がどういう人なのかがよくわからないときは、常に丁寧な言葉づかいを心がけましょう。



4 ネットでの議論のしかた

4. 感情的な返答をしない。

ネット上の会話では、他の書き込みをしている人の気持ちを察することも重要です。たとえ、乱暴な言葉での書き込みであっても、書いた人が必ずしも怒っているとは限りません。そのような返答を受け取ったときには、落ち着いてまずは「怒らせてしまいましたか？」とたずねるなど、相手の発言の意味や意図を確認しましょう。



ネットの世界では、自分の思っていることが伝わらない!?

みなさんは、実際に目の前で相手と話をしているときと、メールや掲示板など「文字だけ」でやり取りするときでは、どちらがもめ事が起きやすいと思いますか？

人は実際に会って話をしているとき、言葉を使って「内容」を伝えることに加えて、身ぶりや手ぶり、表情、しぐさ、声の調子など、言葉以外の要素で自分の「感情」を伝えています。言葉で伝える部分と言葉以外で伝える部分は、それぞれに大きな役割があり、両方が揃っていれば、あまり誤解なく話を進めることができます。

一方、文字だけのやりとりでは、言葉を使った「内容」しか伝わりません。これは自分が「伝えたい」と思っていること全体の、3割程度しかないとされています。つまり、メールやネットでの会話のように、文字だけでやり取りをする場合、表情やしぐさのような言葉以外の要素で伝わっていた「感情」が抜け落ちてしまうため、誤解を招きやすくなるのです。

文字だけのやり取りで相手に誤解されないようにするには、「なぜ自分はそう思ったのか」という理由を書くなど、できるだけ言葉を尽くす必要があります。



4 ネットでの議論のしかた

では、言葉を²尽くすとはどういうことでしょうか。例えば、何かをほめたり、けなしたりするときに「〇〇は本当におもしろい（つまらない）」と書くのではなく、「自分はもともと△△のようなものが好き（嫌い）なので、〇〇も好き（嫌い）」という書き方をすると、それを読む人に自分の価値観（自分にとって何が大事で何が大事でないかということ）を理解してもらうことができます。

自分だけがわかっているような書き方ではなく、読む人のことを考えて、自分の考えや持っている情報をできるだけたくさん書いてあげること。これが「3割しか伝わらない」ネットの世界で、感情の行き違^{ちが}いを減らすコツなのです。

●「議論」って何だろう？●

みなさんは議論をすることを、口げんかをするようなイメージで考えていませんか？ 議論の本来の目的は、ある問題に対して違^{ちが}う意見を持つ人たち同士が集まって、お互^{たが}いが納得できる解決策を探ることですから、口げんかとはまったく違^{ちが}います。みなさんもホームルームや生徒会などで、実際に相手と対面して議論をしたことはあるでしょう。今後はそれに加えて、ネットを使った議論のやり方というの、覚えておく必要があります。

ネット上での議論が難しいのは、相手がどういう人なのかをよく知らないことがあり、さらに文章からは相手の感情がうまく読み取れないので、書かれた文章の本当の意味が伝わりにくいことが挙げられます。そこで、いくつかのルールが必要になってきます。

1. 「意見を言う」と「意見を聞く」のバランスをとる。

自分の主張ばかりを述べているだけでは、相手も納得できる結論にたどり着くことはできません。相手が発言する機会を、意識して作ってあげる必要があります。

2. 主張には、相手を納得させる裏付けが必要。

議論の場での発言は、何を言ってもかまいません。ですが、その主張には、相手が納得できるだけの理由が必要です。こう感じた、だけでなく、なぜそう感じたのかの理由までふまえて発言すると、より説得力が生まれます。相手もよく知っていて、納得しやすい例を挙げるといった工夫も、効果的です。

3. 納得できない意見に対しては、反論ではなく質問をする。

相手の意見に対して反論したくなるのは、相手の意見に納得できない部分があるからです。その納得できない部分を相手に解説してもらえるよう、質問をします。質問されたほうは、相手に納得してもらえるように工夫して、説明しなければなりません。相手の意見を取り消させたり、発言を禁止する権利は、だれも持っていません。もし、相手がそのような攻撃^{こうげき}的な態度をとり続けるようなら、それ以上議論としては先へ進めませんので、相手が落ち着いてこちらの意見を聞くことができるようになるまで、しばらく時間を空けるとよいでしょう。

4 ネットでの議論のしかた





4 ネットでの議論のしかた

4. お互い^{たが}が納得できる解決策を考える。

お互い^{たが}の主張に納得できたら、次はお互い^{たが}が納得できる問題の解決方法を考えます。相手の意見にも納得したのであれば、自分の主張が100%通るとは思わないでしょうし、まったく新しい解決策を、お互い^{たが}が協力して生み出すこともできるでしょう。その解決策は、自分たちが実行可能なプランであることも重要です。

5. 結論が自分の思い通りにならなくても、負けではない。

議論においては、相手を完全に説得できれば自分の主張通りの結論となることもありますが、ほとんどの場合、結論はお互い^{たが}の主張の間になります。自分の主張どおりにならなかった、また相手の主張のほうが多く通ったからといって、相手に負けたことにはなりません。お互い^{たが}が実行可能な解決策が見つかり、問題が解決できたことに、議論の成果があります。